



SUBARU 2025方針

SUBARU Management Policy 2025

株式会社SUBARU

代表取締役社長 CEO 大崎 篤

2025年11月10日

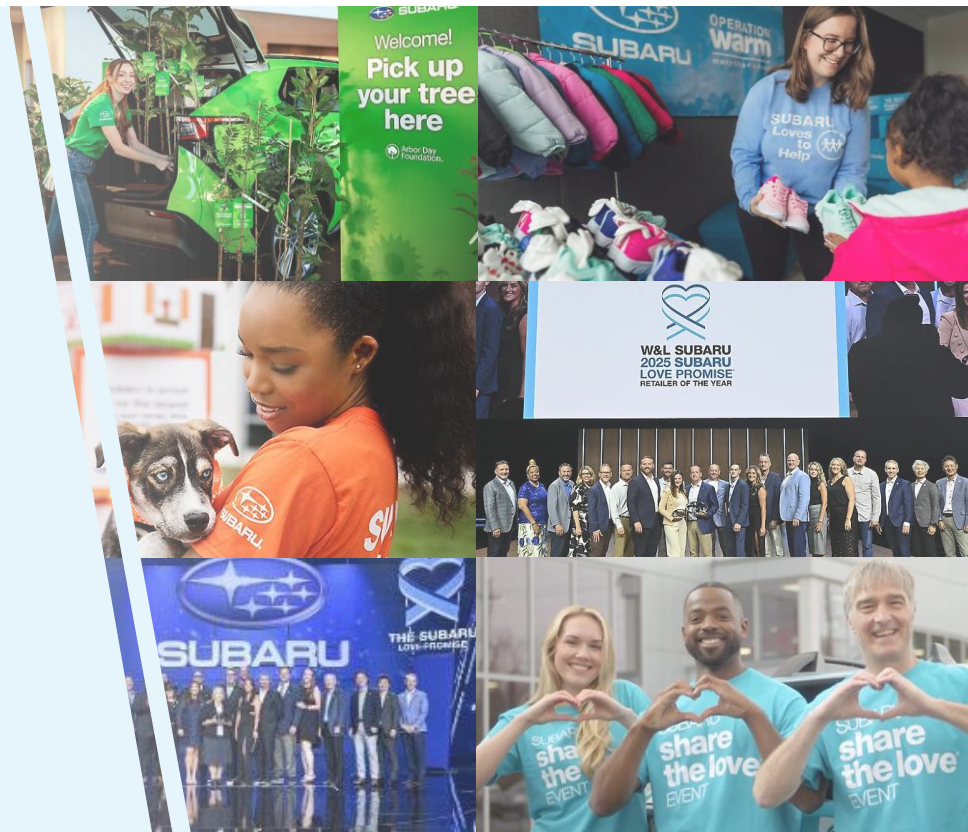
「存在感と魅力ある企業」へ

SUBARUの提供価値
「安心と愉しさ」が
紡いできた
お客様とのつながり



「存在感と魅力ある企業」へ

SUBARUを介して
つながる仲間とともに、
思いやりのある社会を
実現したい



「新体制の方針」の真の狙い

2023.8 新経営体制における方針

■ 新経営体制のもとで生産体制や開発プロセス、商品企画を一気に刷新し、「モノづくり革新」「価値づくり」を始動

新経営体制



開発

商品

生産

・モノづくり革新
・価値づくり

モノづくり革新

価値づくり

「モノづくり」「価値づくり」で
世界最先端を狙う

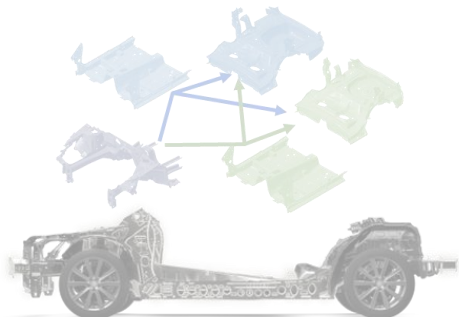
BEVに舵を切り、資源の集中先を
BEVとすることで早期に実現する



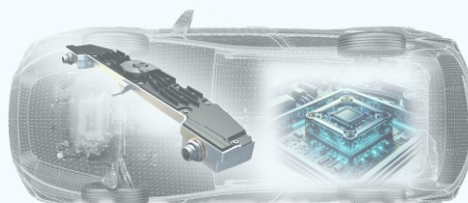
モノづくり革新における 「柔軟性」の徹底的な追求

- 開発・生産の革新
- プロセス／意識改革

次世代
プラットフォーム

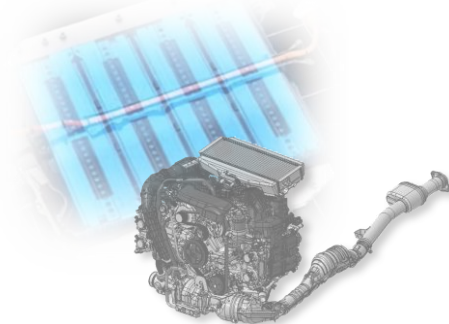


制御統合ECU/ADAS
E/Eアーキテクチャ



統合運動制御

次世代
パワーソース



コア技術の共通化による高効率開発

プロセス改革

- 大部屋方式によるアジャイル開発
- 俊敏な判断と柔軟な運用
- 手番レス開発（最短手番の追求）

成果創出へ スピードアップ

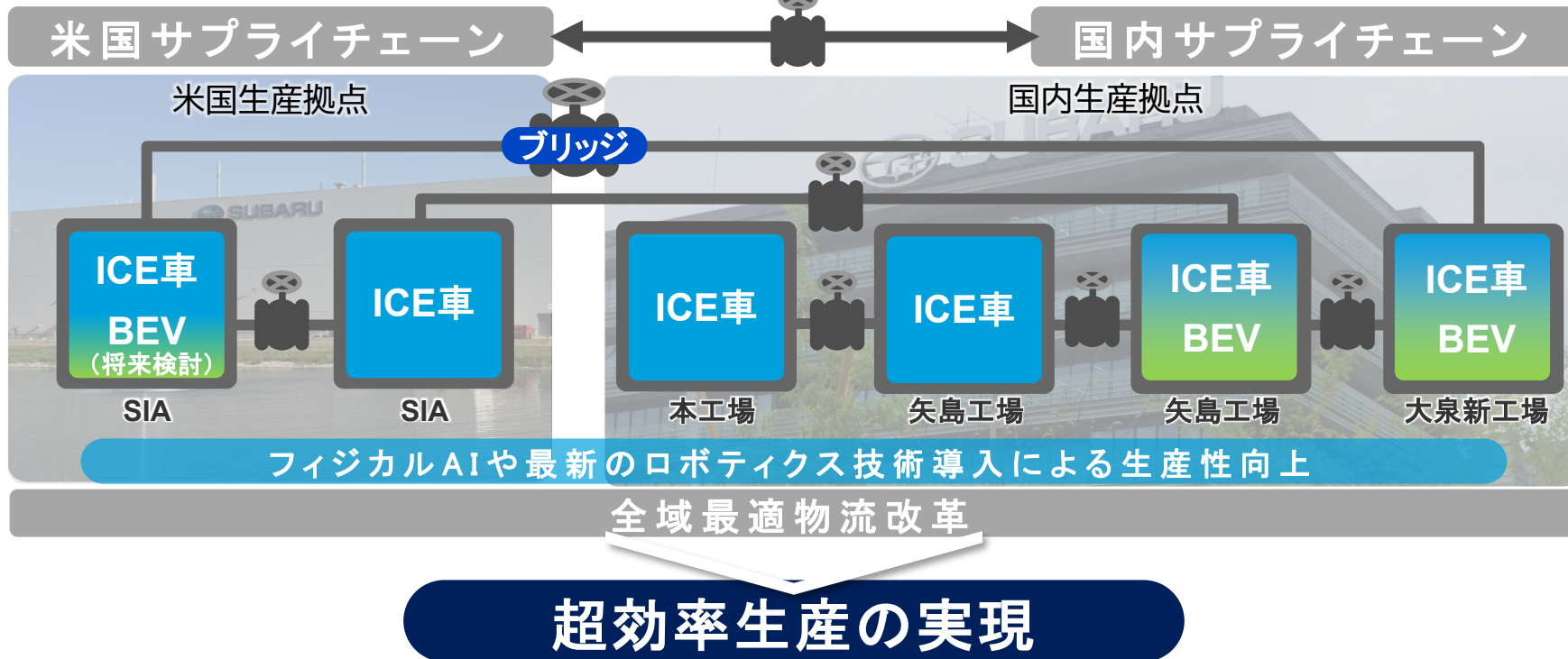
意識改革

- 従前に捉われない発想
- 現場による自律的な思考・行動・判断
- まず実践・積極的な変化の受容

真の競争力をもった人・組織づくり

柔軟性の徹底的な追求 - 生産 -

- 強みとする「持てる能力を余すことなく引き出す効率的な生産体制」をさらに進化
- 「混流生産」と「ブリッジ生産」による最適化で、市場・モデル別の需要に応える生産体制を実現



柔軟性の徹底的な追求 - 商品 -



モノづくり革新

効率 開発/生産

現ラインアップ

超効率 開発/生産

商品ラインアップの大幅拡充

価値づくり推進 -「安心と楽しさ」の進化-

一人ひとりに
最良の安心と楽しさを

テクノロジーによる
減価ゼロ

サービス

クルマづくりに込めた
安心と楽しさ

価値づくり推進 -「安心と愉しさ」の進化-

顧客接点拡張
データ活用の高度化

コネクティッドプラットフォーム

減価ゼロ
ソフトウェアアップデート

減価ゼロ
ハードウェアアップデート

E/Eアーキテクチャ

Software Update
Completed

一人ひとりに最良の安心と愉しさを



「安心と愉しさ」を磨いていく



ブランドを際立てる Driving the Subaru Difference



厳しい事業環境のなか、経営基盤の強靱化を図り、収益の拡大を目指す

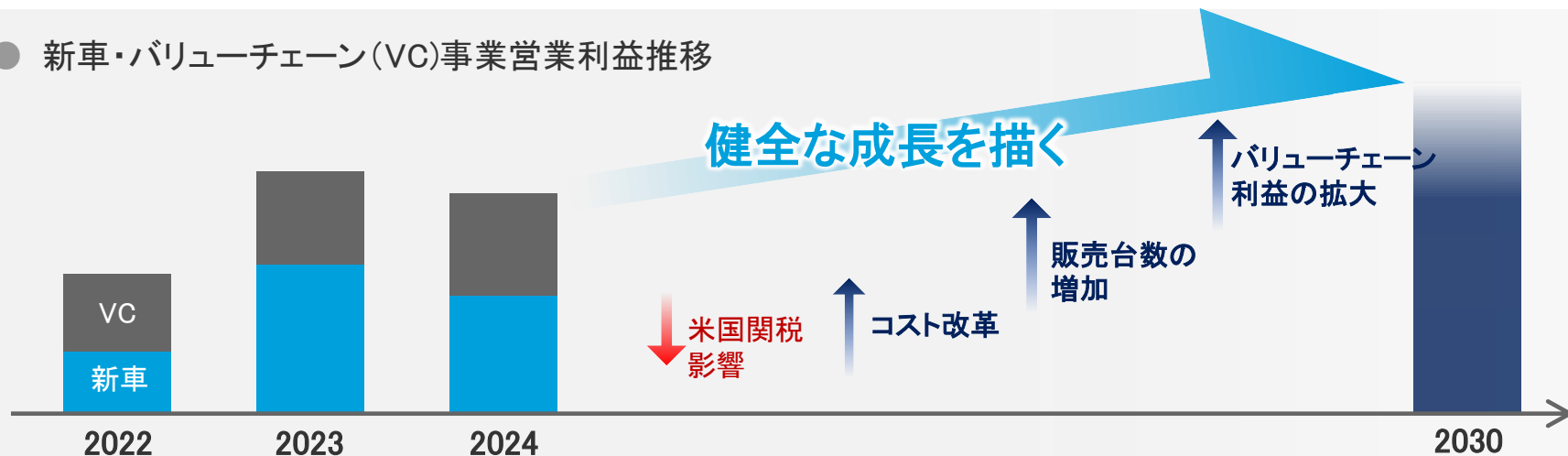
異次元のコスト改革

- 米国関税の影響を跳ね返すコスト改革を推進
(2030年までに2,000億円規模の低減)
- 全社プロジェクト「原価維新20-30」を立ち上げ・推進

収益基盤の拡大

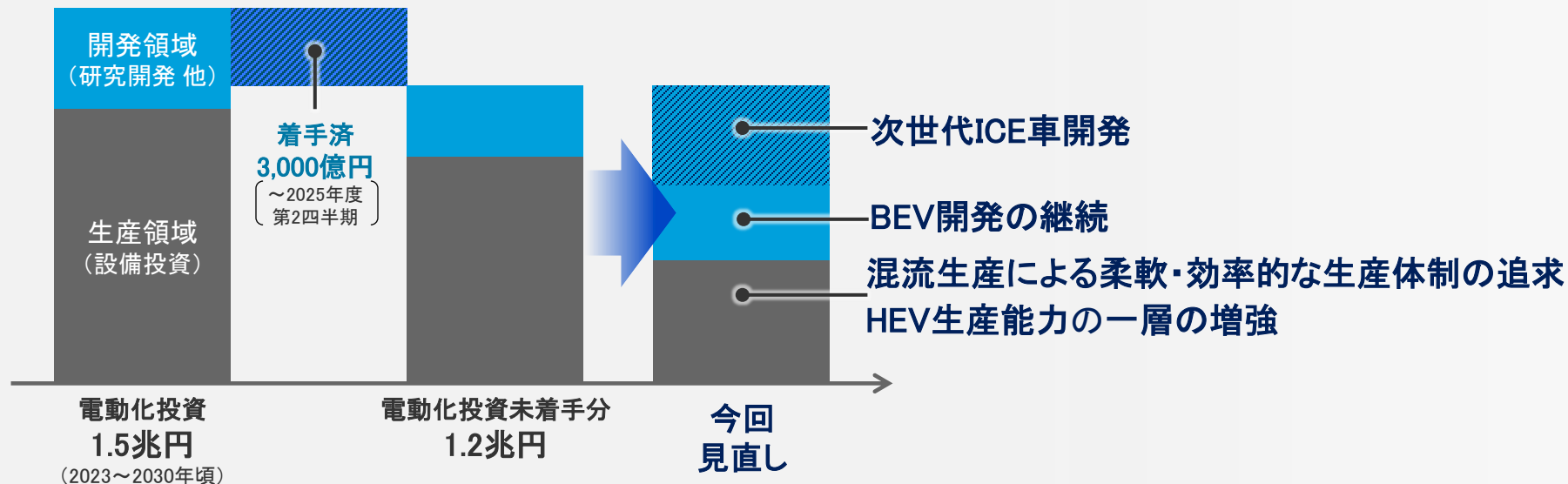
- 世界販売台数120万台+ α の達成
(2030年代前半の達成を目指す)
- バリューチェーン収益の拡大

● 新車・バリューチェーン(VC)事業営業利益推移



成長投資

- 中長期的にはBEVが主軸になっていくという考え方は不変
- HEVの需要増加、内燃機関の再評価を踏まえ、本格的なBEV量産投資のタイミングは遅れると想定
- 従前の電動化投資1.5兆円は内容を精査し、BEV以外の開発・生産へ柔軟に組み換える



Thank you

